

学校名	盛岡大学短期大学部
設置者名	学校法人盛岡大学

## 2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

## (1) 幼児教育科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	保育原理	2		No.1-1
2	教育原理	2		No.1-2
3	子どもの保健	2		No.1-3
4	乳児保育Ⅰ	2		No.1-4
5	保育方法論Ⅱ	2		No.1-5
合計単位数		10		

講義科目名称： 保育原理

授業コード： T1123 T1126

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業必修・保育士必修
担当教員			
岩崎 基次			
幼児教育科DP(1)(2)に関連	幼教-専門-卒業【卒・保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育の理論と内容
授業計画	<p>第一回 子どもの誕生と子育ての問題等についての理解「園内外の保護者に対する子育て支援」</p> <p>第二回 幼稚園、保育所、認定子ども園等の施設についての理解</p> <p>第三回 子どもの最善の利益と保育</p> <p>第四回 子どもの理解(実態)に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の理解</p> <p>第五回 保育内容の五領域について</p> <p>第六回 幼児期に育みたい資質・能力、育ってほしい10の姿</p> <p>第七回 保育と形態 【子どもの自由度から見た形態(一斉保育と自由保育)】(定義について)</p> <p>第八回 保育と形態 【一斉保育と自由保育の課題と対応】(長所短所についてグループワーク、発表)(解説して理解を深める)</p> <p>第九回 保育と形態 【子どもの自由度から見たその他の形態】(定義について)</p> <p>第十回 保育と形態 【縦割り保育、統合保育等】(長所短所についてグループワーク、発表)(解説して理解を深める)</p> <p>第十一回 遊びの見方(パターンの遊びの分類、機能的側面の分類) (事例を基にグループワーク、発表)(解説して理解を深める)</p> <p>第十二回 子どもの主体的な活動と環境構成の意義</p> <p>第十三回 子どもの主体的・対話的で深い学びの内容 (事例を基にグループワーク、確認と振り返り)</p> <p>第十四回 保育での危機管理と教育</p> <p>第十五回 保育内容の記録と個々の育ちの記録、 家庭・地域との連携</p>
授業のねらい及び概要	<p>この授業では、保育の意義及び目的について理解し、保育の現状と課題について知り理解を深める。その上で保育に関する制度等と保育所保育指針における保育の必要性とその位置づけについて理解することをねらいとする。具体的には、保育の意義や目的等について事例を提示しながら具体的に理解できるようにする。また、歴史的背景と思想、地域性の課題等について、保育の形態と遊びの指導、保育の共同性と育ち合い、個々の尊重と主体的な学び等について具体的に状況を思案しながら学ぶことが出来るようにする。幼児教育を実践(幼稚園教諭15年間)経験してきた実践より保育の現場でのそれぞれの園に応じた実際の状況を伝えながら保育の根本の原理について焦点をあて、学生同士グループワークを取り入れながら理解を深めていくこととする。</p>
到達目標	<p>到達目標1 1. 具体的に現在の保育の現状と課題についてその関係を説明することができる。DP(1)</p> <p>到達目標2 2. 保育所と幼稚園の保育の共通点と相違と小学校との接続に関して理解する。DP(1)</p> <p>到達目標3 3. 地域や保育の理念の違いにより、様々な保育の形態の良さと問題点を理解し具体的に発表する。DP(2)</p> <p>到達目標4 4. 危機管理の理解と地域とのかかわりの重要性について理解し子育て支援の実践について理解を深める。DP(2)</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	事前に、実際に保育所を見学して一日の流れ知ること又は具体的な保育の流れが分かる資料に目を通しておく。 授業前には、事前に行うところを10分程度目を通しておくこと。 事後に、授業で行った内容について20分程度そこでの重要なことは何か自分なりに考えてみる。
評価方法	レポート(30%)として、保育内容についてのレポートを評価する。 試験(70%)として、総合的に内容についてペーパーテストを行い評価する。 授業の参加の仕方や提出物等の状況によっては減点の対象にする。
履修上の留意点	・学生同士の協議時は、積極的に参加して意見交換を行い、問題に対する考え方・視野を広げること。 ・何らかの事情で授業を欠席した場合には、次の授業までに配布プリント等を取りに来て授業内容を確認すること。
テキスト	プリント配布、(株)みらい、井上孝之、知のゆりかご『つながる保育原理』、2,268円
参考文献	保育所保育指針解説
教員e-mailアドレス	miwasaki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業必修・幼稚園2種必修・保育士必修
担当教員			
岩崎 基次			
幼児教育科DP(1)(2)に関連	幼教-専門-卒業【卒・幼保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	幼児教育の原理
授業計画	<p>第一回 教育とは何か、教育の意義と目的</p> <p>第二回 学校教育の基礎になった思想 1 (コメニウス と ルソー)</p> <p>第三回 学校教育の基礎になった思想 2 (ペスタロッチ)</p> <p>第四回 幼児教育の基礎になった思想 1 (フレーベル)</p> <p>第五回 幼児教育の基礎になった思想 2 (モンテッソーリ)</p> <p>第六回 学校教育の基礎になった思想 3 (デューイ)</p> <p>第七回 海外の幼児教育の実践例 「レッジョ・エミリアの幼児教育DVDの視聴」(情報リテラシー教育)</p> <p>第八回 海外の幼児教育の実践例「レッジョ・エミリアの幼児教育、オランダやフィンランドの幼児教育について」(情報リテラシー教育)</p> <p>第九回 先人たちの示している経験主義教育と日本の教育の思想、「遊びを通して総合的な指導」の関連</p> <p>第十回 日本の学校教育の経験主義教育の実践事例『きのくに子どもの村学園』(DVD)による課題提示(情報リテラシー教育)</p> <p>第十一回 現代の日本の小学校教育の考え方 「生活科の取り組みと総合学習」</p> <p>第十二回 『きのくに子どもの村学園』の教育内容について各自レポートしたものをもとに協議 (グループディスカッション)</p> <p>第十三回 日本の学校教育の方向性と『きのくに子どもの村学園』の教育の共通点と違いについて</p> <p>第十四回 幼児教育と小学校教育の接続の理解</p> <p>第十五回 幼児教育における「環境を通して学び、共同の学び」について</p>
授業のねらい及び概要	<p>ここでは、歴史の先人たちの功績から教育の理論と実践、幼児教育から義務教育の教育の核となる考え方を学びながら、現在の初等教育と保育の基礎となっている「体験を通して」学ぶこと「遊びを通して総合的な指導」とは何か、について考えながら理解することを目的とする。前半に先人たちの功績を学びながら、授業の後半には前半の学んだ知識を基に幼児教育を実践(幼稚園教諭15年間)経験してきた実践を提示しながら理論や教育の制度を理解し、現在の初等教育の実際の難しさや問題について考える。教育原理の知識を記憶することに執着せず、初等教育において提示された課題について各自が調べたことを元に発表し合うことを通して、考える視点を広げ自己解決能力を培いながら学べるように進めていこうとするものである。</p>
到達目標	<p>到達目標1 1. 家庭と学校と社会の中で教育の考え方、課題について考え理解する。DP(1)</p> <p>到達目標2 2. 歴史の先人たちの教育の理論と実践の内容を理解する。DP(1)</p> <p>到達目標3 3. 歴史的な教育の思想を基盤として現代の教育の基礎ができていることを理解する。DP(1)</p> <p>到達目標4 4. それらが現在の幼児教育、初等教育の中で「体験を通して」学ぶこと、また、幼児教育の中で「遊びを通して総合的な指導」とあるが、その関連について考え、理解する。DP(1)(2)</p> <p>到達目標5 5. 具体的な教育事例を通して現在の教育現場の問題について学生同士の考えを伝え合い、議論することでいろいろな視点で考えることができる。DP(1)(2)</p> <p>到達目標6</p>

	到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前に、現在の初等教育の現場における課題について考えておく。また、授業前には15分程度前授業のつながりを見ておく。 事後に、授業で行った内容について15分程度そこでの重要なことは何か自分なりに考えてみる。
評価方法	レポート(40%)として、経験主義の教育内容についてのレポートを評価する。 試験(60%)として、総合的に内容についてペーパーテストを行い評価する。 授業の参加の仕方や提出物等の状況によって減点の対象とする。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生同士の協議時は、積極的に参加して意見交換を行い、問題に対する考え方の違いのみならず、その根拠とする考え方に目を向けることとする。</li> <li>・何らかの事情で授業を欠席した場合には、次の授業までに配布プリント等を取りに来て授業内容を確認すること。</li> </ul>
テキスト	プリント配布、(株)みらい、井上孝之編、知のゆりかご『つながる保育原理』、2,268円 幼稚園教育要領解説
参考文献	適宜紹介
教員e-mailアドレス	miwasaki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業必修・保育士必修
担当教員			
石川 正子			
幼児教育科DP(1)に関連	幼教-専門-保育【保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育者として子どもの心身の健康の健康増進を図るための基礎知識を身につける。		
授業計画	第1講	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	
	第2講	健康の概念と健康指標	
	第3講	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	
	第4講	地域における保健活動と児童虐待と防止	
	第5講	身体発育と生理機能の発達と保健	
	第6講	運動機能と精神発達	
	第7講	健康状態の観察	
	第8講	発育・発達の把握と健康診断	
	第9講	保護者との情報共有	
	第10講	主な疾病の特徴① 子どもの病気の特徴、感染症、免疫・アレルギー性疾患	
	第11講	主な疾病の特徴② 消化器疾患、循環器疾患、血液疾患	
	第12講	主な疾病の特徴③ 内分泌・代謝疾患	
	第13講	主な疾病の特徴④ 神経系の疾患、腎・泌尿器疾患	
	第14講	主な疾病の特徴⑤ 先天性の疾患	
	第15講	子どもの疾病の予防と対応	
授業のねらい及び概要	保育の専門家として子どもの生命の保持および情緒の安定を図るために、ひとり一人の健康や発育状態に応じた保健活動について習熟することを目的としている。具体的には、解剖学の観点から人体の発達や生理機能などの基礎知識を習得し、健康状態の観察および主な疾病の特徴や予防、適切な対応などについて画像を取り入れながら教授する。本講義は、保健師および養護教諭としての知識を生かし、長年の看護師および助産師としての実務経験に基づき、具体的な事例の解説を行いながら講義を行う。		
到達目標	到達目標1	子どもの保健の意義と目的が理解できる (DP1)	
	到達目標2	子どもの発育および発達について理解できる (DP1)	
	到達目標3	子どもの健康状態の観察や主な疾病の特徴や予防・対応が理解できる (DP1)	
	到達目標4		
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		
事前・事後学修	事前学修として、シラバスまたは授業時の指示に従い受講前にテキストの該当箇所を熟読し授業に臨むこと。講義内容の理解を深められるよう関連する本や記事などを読んでおくこと 事後学習として、ノートやテキストを振り返り、不明な点は確認するなどして効果的な学習になるように努めること (要する時間90分以上)		
評価方法	定期試験 100%		

履修上の留意点	履修中の私語厳禁、携帯の電源を切ること。保育者として、多様な子どもの命を守り健やかな育ちを支援するために必要な知識であるため、真摯に取り組むこと。
テキスト	子どもの保健・健康と安全 - 理論と実際 - 岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹 [監修] 同文書院
参考文献	子どもの保健 及川郁子・草川 功編 建帛社
教員e-mailアドレス	syouko_i@morioka-u. ac. jp
オフィスアワー	C校舎2階 LB 2 1 3 前に提示する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択 保育士必修
担当教員			
石川 正子			
幼児教育科DP(1)に関連	幼教-専門-保育【保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	乳児の理解を深める。
授業計画	<p>第1 回 乳児保育の意義</p> <p>第2 回 乳児保育の歴史と現状</p> <p>第3 回 3歳未満児の発達と特性</p> <p>第4 回 6か月未満の発達と保育</p> <p>第5 回 1歳3か月未満の発達と保育</p> <p>第6 回 2歳未満の発達と保育</p> <p>第7 回 3歳未満の発達と保育</p> <p>第8 回 乳児保育の内容と方法（食事・睡眠）</p> <p>第9 回 乳児保育の内容と方法（排泄・着脱衣・清潔）</p> <p>第10 回 乳児保育の内容と方法（遊び）</p> <p>第11 回 乳児保育の内容と方法（保育者の配慮）</p> <p>第12 回 乳児保育の内容と方法（健康・安全管理）</p> <p>第13 回 乳児を取り巻く保育の環境</p> <p>第14 回 保育の計画と記録</p> <p>第15 回 乳児保育の今後の課題</p>
授業のねらい及び概要	<p>乳児期は、人としての基礎を培う大切な時期といわれている。人間形成の基盤である愛着を形成し、生活習慣の基礎を獲得する。それらを通して言語や知的発達、人間関係などの基礎を獲得していくのである。乳児保育を担当する保育者としての役割を理解し、保護者の養育力の支援についても理解を深めていく必要がある。乳児保育の意義や重要性、配慮事項などを習熟することを目的としている。本講義は、保健師および養護教諭としての知識を生かし、長年の看護師および助産師としての実務経験に基づき、具体的な事例の解説を行いながら講義を行う。乳児の発達上の特徴や援助方法について映像などを通して講義していく。</p>
到達目標	<p>到達目標1 乳児保育の意義や目的と歴史的変遷および役割などについて理解できる（DP1）</p> <p>到達目標2 保育所や乳児院などの多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解できる（DP1）</p> <p>到達目標3 3歳未満児の発育および発達をふまえた保育内容と運営体制について理解できる（DP1）</p> <p>到達目標4 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携について理解できる（DP1）</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>事前学修として、事前学修として、シラバスまたは授業時の指示に従い、受講前にテキストの該当箇所を熟読し授業に臨む。講義内容の理解を深められるよう関連する本や記事などを読んでおくこと</p>



	事後学修として、ノートやテキストを振り返り、不明な点は確認するなどして、効果的な学習になるよう努めること。ボランティア活動などの様々な機会に、主体的・積極的に乳児とかかわる機会をつくること。（要する時間90以上） 保育所実習では、乳児保育の学びを積極的に実践すること。
評価方法	定期試験100%
履修上の留意点	履修中の私語厳禁、携帯の電源を切ること。受け身ではなく、実際の子どもの姿・保護者を想像しながら受講すること。保育者として、職務についたときをイメージしながら臨むこと。
テキスト	使用しない
参考文献	乳児保育の理解と展開 須永 進編 同文書院 保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省編 フルーベール館
教員e-mailアドレス	syouko_i@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	C校舎2階 LB213前に提示する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
畠山 須賀子			
幼児教育科DP(1)(2)(3)に関連	幼教－専門－選択【よ・ほ】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育方法の探究
授業計画	<p>1 「保育方法」とは一方法の多様性と原理</p> <p>2 教材研究①－子どもに必要な教材とは</p> <p>3 教材研究②－一斉活動の考え方</p> <p>4 教材研究③－一斉活動の検討 ディスカッション</p> <p>5 教材研究④－教材研究のための情報収集 ディスカッション</p> <p>6 教材研究⑤－一斉活動の模擬保育 ディスカッション・ロールプレイ</p> <p>7 環境構成を読み解く視点 ディスカッション</p> <p>8 PDCAサイクルの実践 ディスカッション</p> <p>9 人的環境の検討 ディスカッション</p> <p>10 遊びを支える環境構成の検討①－実習園の環境構成比較 グループワーク</p> <p>11 遊びを支える環境構成の検討② グループワークとレポート作成</p> <p>12 遊びを中心とした保育の検討①－子どもの遊びの保障遊びを中心とした保育の検討② DVD視聴とディスカッション</p> <p>13 遊びを中心とした保育の検討② グループワークとレポート作成</p> <p>14 保育記録の種類と様式－保育における情報機器の活用</p> <p>15 保育方法の探究</p>
授業のねらい及び概要	<p>理論に基づき、子どもの発達を支える多様な保育方法について具体的に学び、理解を深める。特に、保育における遊びや教材についての情報収集や活用方法の検討、保育実践の映像を用いたディスカッションやグループワーク等（詳細授業計画参照）を通して、保育者としての実践力を培うことをねらいとする。</p> <p>幼稚園教諭として30年以上勤務した授業担当者の実務経験を活かし、現場で求められる保育者の関わりや環境構成の方法を実践的に考えられる講義を行う。なお、ディスカッションやグループワーク等の進行状況によっては、授業の進行や内容は柔軟に対応することとする。</p>
到達目標	<p>到達目標1 環境を通して行う保育の基本原則に基づいて、遊びの重要性を説明できる。(DP1, 3)</p> <p>到達目標2 子どもの発達の特性を理解し、発達に即した多様な保育方法及び教材の情報収集や検討をすることができる。(DP1, 2)</p> <p>到達目標3 子ども理解を起点として実践を構想する方法を理解し、指導案立案のうえ実践することができる。(DP1, 2)</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修として、翌回の講義内容をテキストを用いて下調べし、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと（30分程度）。</li> <li>・事後学修として、毎回の講義内容についてテキストや参考文献を読んだり、学生同士でディスカッションしたりし、内容の確認と情報共有を行うこと（30分程度）。</li> <li>・教材研究として、書籍やインターネット等で遊びや教材の情報収集をすること。</li> </ul>
評価方法	提出課題50%、レポート試験50% ＊提出を求めた課題に対しては、コメント記入や全体講評の形でフィードバックを行う。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育方法論Ⅰが履修済であることを前提とする。</li> <li>・詳細は、第一回講義にて解説する。</li> </ul>
テキスト	①「改訂 環境構成の理論と実践」（高山静子著, 郁洋舎）ISBN 978-4910467009 ②「幼稚園教育要領解説」（文部科学省, フレーベル館）ISBN 978-4577814475 ③「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省, フレーベル館）ISBN 978-4577814499 ④「保育所保育指針解説」（厚生労働省, フレーベル館）ISBN 978-4577814482 ＊すべて生協書籍コーナーにて販売
参考文献	「改訂 保育者の関わりの理論と実践」（高山静子著, 郁洋舎）ISBN 978-4910467016 「新版 保育とおもちゃ」（瀧薫著, エイデル研究所）ISBN 978-4871686198 その他、授業で適宜紹介
教員e-mailアドレス	sugako-h@morioka-u. ac. jp
オフィスアワー	授業の前後及びmellyにて対応する。